

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	アートとスピリチュアリティ		
研究代表者	渡部 諭	役職	教授
フリガナ	ワタナベ サトシ	学位	教育学修士
学科等	総合科学教育研究センター	Eメール	watanabe314@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)			
主な共同研究者(学外)	久保田力（東北芸術工科大学芸術学部教授）		
研究の内容			
<p>従来、古代中国やエジプトをはじめとする古代社会、そして日本の民俗的な靈魂観についての個別的研究はそれぞれの分野において推し進められ、一定の成果が発表されている。しかし、ことインドに関しては、これまでまとまった研究が非常に少ないように思われる。特に、輪廻転生説が成立するウパニシャッドの時代までの、古代インド人たちの靈魂観念の形成過程については未だに不明の部分が多く、少なくとも日本語で読める資料は非常に限られている。また、無我（非我）を標榜する原始仏教が誕生し、靈魂を否定する宗教思想として出発した仏教も、大乘仏教になるとアラーヤ識や如来蔵などのように、ヒンドゥー教思想のアートマン（我、靈魂）ときわどく接近した輪廻主体の観念を紡ぎ出さざるを得なくなった。そして、後に東アジア一帯に流布した仏教は、民俗レベルにおいては祖先（祖霊）崇拜と強く結びつくこととなった。したがって、ある意味で、アジアの宗教思想の特徴的類型を示す分類基準もしくは標準尺度は、欧米や中東等の宗教に広く見られるような“神”（有神論／無神論）ではなく、むしろ“魂”（有魂論／無魂論）に求められるのではないか。そこで問題になるのがアニミズムである。インド思想における原初的な靈魂観念の形成過程を、アニミズムやマナイズムなどを含めた人類学的なパースペクティブで捉えようとした先駆的・画期的な成果がE. アルプマンによって論じられていた（1920年代）ことを今あらためて再評価したい。それ故に、彼の重厚長大な論文を紹介することの意義は決して小さくはないと思うのである。（参考資料として、彼の論文の内容や構成に関する概要を紹介した拙論「古代インドの靈魂観」（『東北芸術工科大学紀要』9、2002）を添付させていただいた。）言うならば、「文献人類学」とでも称すべきアルプマンの研究を発掘することは、それだけで意義深いものであると信ずる。そして、さらにそれを起点として、ひいては現代における靈性理解の新たな視点や問題点を体系的に整理し構築し直していくこと。つまり、インド文献学と人類学・宗教学を架橋するようなひとつの研究を翻訳紹介しながら、その成果によって浮かび上がった問題意識を、現代的で現実的な問題に効果的に摺り合わせていくことを目指す。そのための統計アンケート調査を実施する。そのアプローチの鍵となる対象および中心テーマを、スピリチュアルなものどこかで通底しているであろう「芸術」に限定することにした。芸術とスピリチュアリティとの関係については、ギリシアをはじめ古今東西の芸術家や思想家・哲学者、宗教家たちによってそれぞれ個性的に独立して言及されたり論及されてきたであろう。本研究は、それを芸術系大学の学生たちの意識に探っていこうとするものである。一般的に、スピリチュアルなものに対する社会の関心は、それへの批判も含めて近年急速に高まってきている現象も見受けられる。靈性に関する意識調査や研究報告は、新聞社やテレビ局などのマスメディアによる世論調査のみならず、心理学者や社会学者、また宗教学者たちなどによって最近徐々に増加している傾向にあるようだ。しかし、本研究のように、「芸術」と「スピリチュアリティ」との関係性に焦点が絞り込まれ、また、芸術系の大学生たちのみを対象とした意識調査を実施して結果を分析するような調査研究や報告は未だに公表されていないと思われる。本研究によってそれが実現できれば、芸術における創造性を解読する手がかりを見出すことができるかもしれない。また、芸術が持つ、人を癒したり奮起させたりする力やその可能性についての特徴を探り出す有益な分析や考察を得られるかもしれないと期待している。以上のような意味で、本研究は十分に新鮮で画期的な試みになりうると予想している。</p>			

研究の独自性・アピール点

まず、輪廻転生思想が発生するまでの古代インドの霊魂観を文献学と文化人類学とを駆使して解明しようとしたE. アルプマンの先駆的な長編論文を翻訳することを目指す。一般にはあまり知られていないが、文献人類学と言ふべき画期的な成果を公表する。次に、そのような研究を手がかりとしつつ霊性問題への理解に有効な諸観点を整理し、現代人の問題意識との比較検討を試みる。

期待される成果・波及効果

一般よりもスピリチュアルな関心度が高いと想像される芸術系の大学生たちの意識を体系的にアンケート調査し、分析・検討する。それにより、芸術表現行為がどのようなスピリチュアリティと深く関連するのかという心理的な諸特徴を明らかにする。新聞社等による一般的な宗教意識調査ではなく、「芸術とスピリチュアリティ」の関係性に焦点を絞った意識調査を行い、芸術の持つ可能性を探る。また、それを古代インドの霊性観と比較研究するための基盤的な視点を構築する。

関連する主な業績

渡部・久保田 2010 美術およびデザイン分野の学生のWeb上の情報探索行動, 東北芸術工科大学紀要、第17号掲載、46-51.

久保田・渡部 2011 芸術とスピリチュアリティ -東北芸術工科大学学生対象の質問紙調査結果とその分析-, 東北芸術工科大学紀要、平成23年10月31日、第18・19合併号掲載、98-161.

キーワード

アート、スピリチュアリティ